

平成28年度台湾青森りんご友の会等情報交換会概要

(青森りんご輸出促進支援事業)

- 1 日 時 平成28年10月4日(火) 午後3時～午後5時20分
- 2 場 所 ホテルニューキャッスル3階麗峰の間(弘前市上鞆師町24-1)
- 3 出席者 台湾側：7社、10名、香港側：3社、5名
日本側：50名、合計65名

(出席者名簿：別紙)

- 4 内容(座長：青森県りんご輸出協会丹代専務、通訳：運盈商事鈴木社長)

(1) あいさつ

①一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 太田一民



台湾青森りんご友の会等情報交換会の開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

台湾青森りんご友の会は、2012年10月に台湾の貿易業者や仲卸業者と青森県のりんご関係者が一層の絆を深めるために創設されました。私たち青森県のりんご関係者は、本日お集まりの皆様を青森りんごの販売に当たっては特別大事な存在だと考えています。皆様方の日頃からのご努力とご協力によって、青森りんごが順調に取引され、台湾・青森双方の利益に大きく貢献しています。

本日は、ご多忙の中、台湾で青森りんごを取引きいただいている台湾南部地域の台湾青森りんご友の会の代表の皆様にご出席頂き、心より厚くお礼申しあげます。また、新たに香港にも台湾と同様に青森りんご友の会を創設することとし、本日3社の方を代表としてお招きしたところです。

さて、2015年産の日本のりんご輸出は2年続けて3万tを上回り、過去最大の輸出量となりました。その中で最大の輸出先は台湾で、2万7千トンと過去最高の輸出量となっています。また、香港市場も近年急激に輸出量を伸ばしており、台湾に次ぐ大きな市場として期待しています。

両市場は青森りんごにとって大変大事な市場であり、輸出動向が日本国内でのり

んご価格形成にも大きく影響してきたところであります。このため、両国への輸出量の拡大は本県りんご産業にとって重大な課題となっていると認識しています。2016年産は更に拡大を目指して台湾3万トン、香港1万トン、他1万トンの合計5万トンを目標としています。これを達成するために両国の消費者への積極的な宣伝活動を進め、青森りんご友の会会員との連携を強化することとしています。

本日は、参加者の皆様から産地の状況をご覧いただいた上で、今後の青森りんご輸出促進に当たっての忌憚のない積極的な意見交換をいただき、本日の情報交換会を有意義なものとして参りたいと思いますので、最後までご協力くださるようお願いして、開会のご挨拶といたします。

②青森県知事 三村申吾



台湾の皆様、香港の皆様、ようこそおいでくださいました。心から歓迎いたします。

皆様のお力をいただき、青森のりんごは台湾でも香港でも大変にお客さんに喜んでいただいています。生産地の青森とそれぞれの国のお客さんをつないでいただいている皆様に対して、県民を代表して、りんご生産者を代表して心から感謝申し上げます。

百聞は一見に如かずという言葉がありますが、りんご園地を見ていただき、あるいは市場を見ていただき、今年も青森のりんごはとっても良くできているとご確認いただいたと思います。

今年もトキでしっかり稈いで貰おうとトキのシャツを着てきました。トキの他にジョナゴールド・紅玉もあります。しかし、トキで一回儲けてもらったあと、12月にはふじを持って皆さんのところにセールスに伺います。私はここで皆さん方にお約束したい。青森のトキ、ふじ、王林を皆さんが扱ってもらうことによって皆さんがとってもハッピーになっていただくことを約束したい。

台湾の皆さんはそのことをよく知っている。香港の皆さんにもりんごの会と一緒に早く作っていただきたい。そしてお互いウイン・ウインの関係になりたい。

台湾の皆さん、香港の皆さんはよく知っている。今日は生産者も来ているが、青

森県が出すりんごは一度も裏切ったことはない。私は台湾の農業委員会とFDA（食品薬物管理署）から自分のサインで輸出ができるという厳しい立場ある。だから、間違いなく皆さんに世界最高の青森りんごを提供する義務がある。

今日来ている生産者に聞きたい。世界最高のりんごを台湾と香港にちゃんと提供できるか？（生産者から「オー」と掛け声が上がる。）

これから、お互いのビジネスの発展を願って、県知事としての、また、りんごの責任者としての挨拶とします。

③勝程実業有限公司 鄭 峻竹



本日はお招きいただきありがとうございます。台湾側を代表してご挨拶申し上げます。

本日台湾の南部から来ていただいた仲卸の参加者は、年齢層が若い方が多く入っている。是非若い人を紹介したい。

若い人たちは、ほぼ2代目だが、彼らはりんごがどうやって作られて、どう選果されているのか、見たことも聞いたこともない。ただ、毎日売っているだけだ。この機会をいただきことは、将来の販売につながっていくことになる。

これを契機に今後一層青森りんごの販売を伸ばしていきたいと考えている。本日はありがとうございました。

（2）2015年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

生産状況については、青森県産業技術センターりんご研究所新井所長から、台湾への輸出については、青森県国際経済課三上課長から、さらに台湾宣伝事業について青森県りんご対策協議会加川会長、高澤事務局長から資料に沿って説明がなされた。内容は資料の3から5を参照。

(3) 情報交換(座長：青森県りんご輸出協会丹代専務)

【台湾の状況等について（話題提供）】

<吉興水果行 簡 元宏>



- ・青森りんごは台湾の皆さんに親しまれているりんごだ。
- ・今年の状況について説明します。9 月時点でチリ産、ニュージーランド産が過剰に輸入されていて、その影響もあってりんごの消費量はそれほど大きくなっていない。輸入量が多くて単価も高単価になっていない。
- ・品物が多い状態だが、今月中にはある程度消化してしまうし、捌いてしまうことになる。来月には需要量は出てくることになる。日本産のりんごは台湾で一定の需要があるので、皆さんは心配する必要はない。
- ・今回の産地見学を通じて実際に青森に来て、今年りんごを見て、高品質なりんごが出来ていることを認識したので、台湾でちゃんと販売できるように頑張ります。
- ・今回参加して一番に思ったのは、私自身は青森のりんごを買いに来て 10 年たつが、今回、若い人たちと一緒に来て、もっと一生懸命青森りんごを売らなければいけないという認識を持った。
- ・若い人たちの情熱をもっと引き出すように、今回の産地視察も期間を長く、もっと色々なところを見せてほしかった。
- ・例えば、青森の業者は、皆さん農園を保有して自分達でりんごを生産していると思っている。産地市場で仕入れて、パッキングして輸出している実態は知らない。



- ・ 香港側を代表して青森りんごの香港での販売状況を報告します。
- ・ 香港には地元の手スーパーグループが2つある。各グループがそれぞれ300店舗のスーパーを展開している。これらのスーパーが香港の小売りの70%くらいを占めている。
- ・ この2グループでは青森りんごはあまり売られていない。一部高級な業態のスーパーでは青森りんごを扱っているが、一般的な業態ではほとんど扱っていない。
- ・ 2015年6、592トン香港向けに輸出されているが、行先は日系スーパー・百貨店（本当の日系はイオンとユニーの2社で、他は日系風のヤタ、ソゴーなど）で、合計50店舗ある。ほか、町の中の果物屋、市場の中の果物屋さん、小規模な商業施設の果物屋さんが扱っている。
- ・ 青森りんごの香港での位置づけはそれほど高級品というわけではなく、中級品で普通の家庭で一般的に食べられる商品となっている。
- ・ 今後香港向けを1万トンに伸ばすとすれば、香港の手スーパーグループを攻略するしかない。
- ・ 香港は狭いので、地域別に輸入業者がすみわけすることができない。香港は業者間の競争が激しく、台湾のように業者が仲良くしているわけにはいかない。
- ・ そこで、起きるのが、青森の同じ業者のりんごが複数の流通ルートで流れることになって、価格競争が始まり、薄利多売を強いられる難しい状況がある。各社企業努力して、コスト削減しながら頑張っている。
- ・ その中で、産地に要望したいのは、りんごの等級の付け方が不透明なので、難しいことはわかるが、解決に向けて動きを見せてほしいことだ。
- ・ 青森りんごが香港でのシェア9割（日本産の）を超えているのは、発泡スチロールの箱に入っているからだ。（他産地は段ボール）青森りんごは美味しいだけで

なく、輸送がしやすいとか貯蔵性が良いとか、店頭での棚もちとかが流通業者に評価されているからだ。

→規格の統一については、昨年も同様の意見が出されていたが、産地の業者・農協が多く、これをまとめるのは厳しい状況にある。（丹代専務）

→産地として各社の経営方針があるので、強制はできないが、規格統一の目標を掲げてそれに向けて動き出す姿を見せてほしい。（金久・山本）

【総合討議】

座長（丹代専務）：テーマ① 最近の青森りんごの課題とその対応策について。

② 青森りんごの拡大について

③ 有効な消費宣伝について

＜阿成水果行＞

・親の代から 40 年青森りんごの販売を行っている。親の代は通常の小売りだが、自分は 2 代目で、通信販売に力を入れている。通信販売を拡大するために何か支援がないか。

→台湾のインターネットサイト運営会社を産地招待して P R したが、サイトでの販売はまだ実現していない。（りんご対協・高澤局長）

→香港ではインターネット販売は普及しているのか（丹代専務）

→香港ではフェイスブックを活用して販売していて、取り扱いは増えている。（写真と値段を提示して注文を受けるようにしている。）（TOP WEAL・Kenneth Lee）

→今の話は、今後の販売を考えると大事なことだと感じた。今日の出席者は、小売りや卸売りの関係者で、実店舗で商売をしている人たちだ。お客さんはリピーターが多く年配の人が中心になる。輸出拡大しようとするれば、若い消費者層を開拓しなければならない。これまで青森のりんごを食べたことのない層を取り込むことを考えなければならない。若い人へのアプローチにはインターネットは有力な武器になる。中国本土でもネット販売で果物販売が伸びている。香港・台湾でもネット販売をもっと研究して取り組む必要性を強く感じた。（弘大・黄教授）

＜阿成水果行＞

・ネット販売になると包装容器の問題が出てくる。今の 10 kg では重すぎる。5 kg、3 kg も考慮してほしい。

→5 kg は今も行っている。3 kg は考えないといけない。（丹代専務）

→青森から台湾はアイスボックスで行くが、台湾国内では 5 kg、3 kg の化粧箱で対応すればよいのではないか。（ヤマタミ・太田専務）

→台湾の印刷は日本より劣る。青森側から化粧箱を提供することを考えてほしい。（阿成水果行）

<力生公司 MICHAEL WONG>

- ・香港の販促キャンペーンはどこを予定しているのか？
- イオン、シティスーパー、ヤタを予定している。（りん対協・高澤局長）
- ・香港には大きな市場があるので、そちらでもイベントを実施してほしい。
- 香港は今年初めてキャンペーンを実施する。提案については今後検討したい。（高澤局長）

<TOP WEAL・Kenneth Lee>

- ・当社では独自に40店舗で青森りんごの試食宣伝を実施している。香港でミス・リンゴも用意している。これを機会に今後連携していきたい。
- ・香港の一般スーパーでの日本のりんご販売は10%に満たない。この先発展する可能性はある。宣伝をうまくやって発展させていきたい。
- 是非タイアップしていきたい。（高澤局長）

- 台湾での宣伝の満足度を聞いてほしい。（加川会長）
- 今回参加しているのは、台南から高雄と台湾南部の方々だ。台湾での宣伝は台北・台中など北部の大都市に偏っている。是非南部でも力を入れてほしい。（吉興水果行・簡元宏）
- 高雄でもイベントを実施している。事前に周知したい。（高澤局長）

- 旧正月以降の販売は、台湾では少なくなるが、香港ではあまり変化がない。その理由が知りたい。今後の輸出拡大へのヒントになるかもしれないと思う。（弘大・黄）

- 台湾は、日本のりんごは旧正前の贈答用として好まれている。日本のりんごがあまり高すぎるとチェリーに需要が移ってしまう。旧正月が過ぎると台湾の消費者も体力がなくなるので、より安いりんごや他の果物に需要が移り、日本のりんごも売れなくなる。（簡元宏）

- 香港は、日本のりんごは高級品ではなく、あまり高い日本りんごが出回らないので、いつでも日本のりんごは売れる。（山本）

- 香港で日本のりんごは中級品とのことだが、高級な果物はどんなものがあるのか。（黄）

- りんごだと世界一、メロン、シャイン・マスカット（ぶどう）など。りんご一個300円ぐらいだと贈答には使えない。ミカン8個化粧箱入りとかは人気がある。香港は自動車の規制があるので、原則消費者は歩くことになるので、りんごは重過ぎる。1kg程度が丁度良い。（金久・山本）

- 輸出先で早く収穫して、まずいりんごが売られているのではないかと心配している。適期収穫が守られているのか心配している。（商協連高木会長）

- 出荷規格を合わせることは、りんご協会では品評会で目合わせしているし、業者は機械で選別しているので、可能ではないか。（りんご協会・中畑）

- 台湾・香港も青い王林が好きだという状況があつて、規格を整えるのは難しい。

香港では黄色い王林が美味しいと消費者は知っている。（丹代専務）

→これ以上やることがないほど良くやっている。ただ、もっと宣伝はしたい、みんなで努力していきたい。（ユニシス・徐）

5 台湾青森りんご友の会認定証交付について

台湾青森りんご友の会は、平成24年10月に創設されたが、今回新たに加わった4社に対して認定証を交付した。

これまで認定している62社と合わせると全体で66社が会員となっている。

また、新たに香港にも青森りんご友の会を創設することとし、今回3社に認定証を交付した。

認定証は懇親会の会場で太田理事長から7社の代表に交付された。



6 産地見学

情報交換会に先立って、台湾・香港からの招待者を産地見学ご案内した。

訪問先

① 弘果弘前中央青果市場見学



② 青森県りんご研究所見学



③ マルジンサンアップル選果場見学



④ 森山聡彦園地（弘前市樹木 27 年度青森県りんご輸出チャレンジャー）



⑤ 貞昌寺



出席者名簿台湾側

番号	所 属	氏 名
1	(台湾) 鳳山吉興水果行	簡 元宏
2	高雄吉興水果行	林 淑玲
3	水果師傅	吳 志宏
4	水果師傅	陳 壁玉
5	燕巢瓊林水果行	吳 偉篁
6	台南順利水果行	郭 育廷
7	新化乙陸水果行	陸 栢宇
8	勝程実業有限公司	鄭 竣竹
9	阿成水果行	邱 文啓
10	阿成水果行	郭 家芳
11	(香港) 香港金久有限公司	山本 和樹
12	TOP WEAL LTD	Kenneth Lee
13	TOP WEAL LTD	Jeffrey Wong
14	力生環球有限公司	MICHAEL WONG
15	力生環球有限公司	JACKY
16	(通訳) (有)運盈商事	鈴木 明達

日本側

番号	所 属	氏 名
	<一般>	
1	青森県知事	三村 申吾
2	青森県国際経済課長	三上 洋輝
3	青森県国際経済課総括主幹	長内 昌彦
4	青森県国際経済課主幹	佐藤 新吾
5	青森県りんご果樹課長	鳴海 和人
6	青森県りんご果樹課主幹	間山 三紀夫
7	青森県りんご研究所長	荒井 茂充
8	弘前大学人文科学部教授	黄 孝春
9	青森県りんご協会企画理事	中畑 元男
10	青森県りんご協会企画理事	兜森 浩伸
11	青森県りんご対策協議会会長	加川 雅人
12	青森県りんご対策協議会局長	高澤 至
13	青森県りんご商協連会長	高木 登

番号	所 属	氏 名
14	(株)UNIS代表取締役	徐 正光
15	(株)ファーストインターナショナル課長	立崎 恵一
16	神果神戸青果執行役員部長	義則 純生
17	ハヤマ産業代表取締役	葉山 祐造
18	東海海運(株)係長	清水 信昭
19	東海海運(株)	治尾 泰之
20	(株)ヘガサスクローバルエクスプレス課長 代理	能澤 一裕
21	陽明日本(株)課長代理	藤掛 純也
22	陽明日本(株)	士 文瑛
23	陽明海運股份有限公司	劉 容秀
24	陽明海運股份有限公司	陳 嘉慧
25	CMA CGM JAPAN	松田 尚也
26	日本フレートライナー(株)次長	池田 明元
27	日本フレートライナー(株)所長	西川 修三
28	日本フレートライナー(株)副所長	齋藤 聡
29	日本貨物鉄道(株)支店長	河野 慎一郎
30	りんご生産者	原田 享
31	りんご生産者	村元 幸生
32	りんご生産者	木村 篤志
33	りんご生産者	小林 常人
34	りんご生産者	阿部 賀奈子
35	りんご生産者	外崎 高逸
36	中南県民局りんご農産課長	今村 友彦
37	中南県民局りんご農産課主査	阿部 眞也
38	西北県民局農林水産部次長	鈴木 隆
39	西北県民局りんご農産課主幹	渋谷 玲
40	三八県民局普及振興室主幹	鈴木 均
	<会員>	
41	青森県りんご輸出協会理事長	太田 一民
42	青森県りんご輸出協会専務	丹代 金一
43	青森県りんご輸出協会常務	北山 敏光
44	青森県りんご輸出協会理事	鍛 恒雄
45	青森県りんご輸出協会理事	白藤 孝仁
46	青森県りんご共販協同組合監事	竹谷 保
47	全農あおもりりんご部部長	棟方 清治
48	三印白藤商店	白藤 功太郎
49	ヤマタ太田りんご移出専務取締役	太田 雅晴
50	(株)奥富士	米澤 悠太

資料3 2016年産りんごの生産状況について

1 りんごの生育ステージ

3月の気温が高めに推移したことから、りんごの開花日は平年より3～4日早まりました。

表1 りんごの生育ステージ

りんご研究所（黒石市）

品 種	年 次	発芽日	開花日	満開日	落花日
ふ じ	本 年	4月 2日	5月 4日	5月 8日	5月12日
	平 年	4月 9日	5月 8日	5月13日	5月17日
	平年差	早 7日	早 4日	早 5日	早 5日
つがる	本 年	4月 1日	5月 4日	5月 8日	5月13日
	平 年	4月 8日	5月 8日	5月13日	5月18日
	平年差	早 7日	早 4日	早 5日	早 5日
ジョナゴールド	本 年	3月30日	5月 3日	5月 7日	5月12日
	平 年	4月 6日	5月 7日	5月13日	5月17日
	平年差	早 7日	早 4日	早 6日	早 5日
王 林	本 年	3月31日	5月 3日	5月 6日	5月11日
	平 年	4月 8日	5月 6日	5月12日	5月16日
	平年差	早 8日	早 3日	早 6日	早 5日

注) 平年値：1996年から2015年までの20か年平均。

2 果実の肥大状況

開花が平年より早く、初期肥大は平年を大幅に上回るスタートでしたが、6月の日照不足や少雨の影響により鈍化傾向で推移し、9月1日の調査では、横径の平年比が97～100%と平年並からやや下回っています。

表2 りんご果実肥大経過（横径）

りんご研究所（黒石市）

品 種	調査日	本 年 (cm)	平 年 (cm)	前 年 (cm)	平年比 (%)	前年比 (%)
ふ じ	6月 1日	2.2	1.5	2.6	147	85
	7月 1日	4.3	4.1	4.8	105	90
	8月 1日	6.2	6.1	6.6	102	94
	9月 1日	7.4	7.6	7.9	97	94
つがる	6月 1日	2.5	1.7	2.9	147	86
	7月 1日	5.0	4.5	5.5	111	91
	8月 1日	7.2	7.0	7.4	103	97
	9月 1日	8.4	8.4	8.7	100	97
ジョナゴールド	6月 1日	2.8	1.8	3.1	156	90
	7月 1日	5.2	4.7	5.6	111	93
	8月 1日	7.1	6.9	7.4	103	96
	9月 1日	8.3	8.3	8.7	100	95

注) 平年値：1996年～2015年の20か年平均。

3 2016年産りんごの予想収穫量

2016年産りんごは、開花量が多かったことから着果量は十分確保されています。また、果実肥大は、前年ほどではないものの、8月1日の調査時点で、平年を上回っています。

これから、2016年産りんごの予想収穫量は、大玉で豊作傾向であった前年収穫量より2,900トン少ないものの、過去10か年の収穫量実績値平均44万6,600トンを上回る、46万7,100トンが見込まれています。

表3 2016年産りんごの予想収穫量（2016年8月1日現在）

品 種	結果樹面積 (ha)	予想収穫量 (t)	前年収穫量 (t)	前年収穫量 との差(t)	前年対比 (%)
つ が る	2,280	43,300	50,400	-7,100	86
シ ョナゴール [®]	2,020	42,400	44,700	-2,300	95
王 林	2,170	45,600	48,400	-2,800	94
ふ じ	9,600	249,600	235,700	+13,900	106
そ の 他	3,830	86,200	90,800	-4,600	95
計	19,900	467,100	470,000	-2,900	99

注) 1 結果樹面積は、県りんご果樹課推定値

2 前年収穫量は、国公表の実績値

3 前年対比は、前年収穫量に対する比率

4 病害虫の発生状況等

病害虫の発生は、全般に少ない状況です。

台湾向け輸りんごについては、選果こん包登録施設事業者に対し、モモシンクイガ被害果実の排除の徹底等に関する研修会を開催したほか、台湾の農薬残留基準値の設定状況について、県ホームページへ掲載し、広く周知に努めています。

資料 4 りんご輸出拡大に向けた青森県の取組について

1 輸出の現状と目標

青森県では、青森りんごの輸出目標数量4万トン掲げて、台湾をはじめとする東アジアや経済成長著しい東南アジアを主なターゲットに輸出拡大に取り組んでいます。

その中で最も重要な輸出先に位置づけているのが台湾であり、全輸出量の約8割が台湾向けとなっています。

近年では、香港向けも急激に輸出量を伸ばしており、全輸出量の約2割を占めるまでになっています。

(1) りんご輸出実績

(単位：トン、%)

年産	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
全体数量	25,497	22,256	23,867	17,940	9,867	14,898	19,889	30,115	36,160
台湾向け数量	23,878 (93.6)	20,498 (92.1)	21,656 (90.7)	15,912 (88.7)	8,459 (85.7)	13,214 (88.7)	16,561 (83.3)	23,417 (77.8)	27,279 (75.4)
香港向け数量	591 (2.3)	857 (3.9)	1,284 (5.4)	1,134 (6.3)	875 (8.9)	1,192 (8.0)	2,599 (13.1)	5,416 (18.0)	6,592 (18.2)

注1：()は輸出量全体に占める割合

注2：2015年の実績値は7月末現在

台湾向けについては、2009年産まで連続して2万トンを超えていましたが、2010年産以降は、世界的な景気後退や記録的な円高等により減少し、特に、2011年産では不作に伴う産地価格の高騰もあって激減しました。

それ以降、台湾の販売関係者の皆様の御協力により徐々に回復し、2015年産は、7月末現在で、過去最高の2万7,279トンとなっています。

また、香港向けについては、2013年産からは年々増加を続け、2015年産は7月末現在で過去最高の6,592トンとなっています。

(2) 今年産りんごの輸出希望数量

2016年産輸出希望数量	台湾 3万トン以上 香港 1万トン以上
--------------	------------------------

2016年産のりんごは、過去10か年の収穫量実績値平均を約2万トン上回る46万7,100トンの収穫量が見込まれており、十分な生産量を確保できる見通しです。

青森県では、今後の生産管理に万全を期して、高品質・良食味なりんごを皆様に供給したいと考えています。

本年産の輸出量が台湾と香港で4万トン以上になるよう御協力をお願いします。

2 輸出対策

台湾・香港の皆様へ安全・安心、高品質で美味しい青森りんごを提供するため、青森県では関係者一同力を合わせて次の対策に取り組んでいます。

(1) 生産・流通対策

- ①農薬の適正使用により、病虫害の防除を徹底します。
- ②黄色品種については「カラーチャート」の利用による適期収穫を徹底します。
- ③炭酸ガス障害（褐変）防止対策に取り組みます。

(2) 輸出拡大対策

- ①りんご生産者等の輸出を目指したりんご生産への意識を高め、高品質で良食味な生産により青森りんごの競争力を強化します。
- ②台湾及び香港のりんご販売関係者の産地招へいや産地情報の提供により、双方の信頼関係を強化します。

実施時期	内 容
2016 年 10 月	○台湾・香港の販売関係者の産地招へい 県りんご輸出協会が設立した「台湾青森りんご友の会」の会員である台湾の輸入業者等に加え、新たに香港の輸入業者を招へいし、産地視察や関係者・生産者との意見交換会を実施
2016 年 12 月	○台湾での販売状況調査・意見交換会 生産者が台湾における店頭販売や市場調査を通じて販売状況を把握するとともに、台湾の販売関係者との意見交換会を実施 ○知事トップセールス 青森りんごキャンペーンにおける試食宣伝販売等での P R
2017 年 2 月	○輸出対策の検討 台湾・香港における販売状況調査や意見交換会の結果を踏まえ、今後の輸出対策を検討

資料5

2016年産りんご宣伝事業について

1 台湾における青森りんご宣伝事業

(1) 「トキ」キャンペーンの実施

10月8日(土)～10日(月・祝) 家樂福(新店、桂林店)、大潤發(南湖店)
10月8日(土)～11日(火) JASONS 21店舗

販売スタッフによる試食販売を実施するほかミスりんごによるPRやクイズ大会などのステージイベントを行う。



(2) 「Wellcome」とのタイアップ企画

10月12日(水) 青森りんごフェア記者発表
10月13日(木)～ 青森りんごフェア開催、
テレビCM放映、各媒体露出



(3) 台湾マスメディア産地招待事業

台湾の人気タレントを招待し産地を巡り話題を提供、これに雑誌、テレビなどのメディアが同行し記事やニュースとして情報を発信する。

日程：10月19日(火)～22日(土)

参加予定：林逸欣(タレント)

新聞(自由時報、中国時報、聯合報)、
テレビ局(民視FTV、八大GTV)ほか



(4) 小売店でのPRイベント及び試食宣伝

①試食PR、キャラバンイベント

実施時期：2016年12月～2017年1月

・Wellcome	11月(200店)	・PXマート	12月(調整中)
・台灣楓康超市	12月(10店舗)	・JASONS	12月～1月(21店舗)
・大潤發 RTマート	1月(19店舗)	・カルフル	1月(20店舗)
・太平洋SOGO忠孝店	(調整中)		

②ステージイベント

・台灣楓康超市	12月17日
・JASONS	12月18日
・大潤發 RTマート	1月14日
・カルフル	1月15日
・太平洋SOGO忠孝店	(調整中)



(5) 企業向け青森りんご試食会

雑誌出版社など台湾大手企業とタイアップしたキャンペーンや社員を対象とした試食宣伝、りんご配布、物販ブースを設置しPRをおこなう。



(6) 販売促進資材の作製、配布



うちわ



鮮度保持袋



販促フラッグ



ポスター



トキリーフレット

(7) 流通関係者との会議、行政関係機関等訪問など



台湾友の会との意見交換会



行政関係機関訪問



幼稚園、福祉施設訪問

(8) テレビ宣伝

テレビCM（トキ編：10月、こだわり編：12月～1月）

ケーブルテレビCM（こだわり編：12月～1月）

タイアップ情報番組



(9) 雑誌への記事、広告掲載

新聞：自由時報、聯合報、アップルデーリー、中国時報

雑誌：「康健」、「壹週刊」、「媽媽寶寶」



(11) 新北果菜市场への広告看板掲出及びイベント実施

・屋外看板掲出



・新北果菜市场でのイベント実施（調整中）

2 香港における青森りんご宣伝事業（11月下旬～12月）

（1）量販店での青森りんご試食販売 PR

（2）役員、ミスりんごらの参加によるプロモーション

11月26日（土）、27日（日） 香港市内量販店でのPRイベント

（3）新聞、雑誌広告掲載

